

智頭町第7次総合計画進行管理結果
平成30（2018）年度事業

令和元（2019）年8月

企画課

1 目的

第7次智頭町総合計画を推進するため、総合計画に記載されている基本計画について進行管理を適切に行うための仕組みを構築し、それぞれの所管課においても計画の進捗状況を管理する。

また、令和元（2019）年7月1日に内閣府から「SDGs 未来都市」の選定を受け、今後の進捗及び評価については、SDGsの指標も加えて行うことで、第7次総合計画の将来像とSDGsの理念に近づいているかを可視化することが可能となる。

2 進捗状況の検証

各所管課は、年度末に事業それぞれにPDCAサイクルマネジメントを実践するため、進行管理検証シートを作成し、内部評価を実施する。

3 進行管理検証シートの作成

- ・各課の事業それぞれに進行管理検証シートを作成及び評価
（※検証結果はホームページで公表）

4 評価指標

評価については、第7次智頭町総合計画の将来像を達成しているかについて評価することとするが、個別の事業計画において目標値を設定している場合はその目標値への達成度に鑑み、進行管理検証シートの《評価》欄に下記のとおり、A～Eを選択した。評価内容については、各課各事業において検証結果を記述した。

「将来像：一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ」

評価	内 容	達成度合
A	「将来像」に十分に達成している	100
B	「将来像」にかなり達成している	75
C	「将来像」に達成しつつある	50
D	「将来像」にあまり達成していない	25
E	「将来像」に達成していない	0

1 森の恵みを活かしたまちづくり

森の恵みを活かしたまちづくりの全体的な評価としては、A「十分に達成した」、B「かなり達成した事業」が33事業中9事業で全体の27%となっており、昨年度と比較して9ポイント上昇しているため、全体的な達成度はまだまだ低いですが、将来像を目指して概ね順調に進捗していることが伺える。

今回、達成度が進んだ事業は農林業部門が多い。林業では、「次世代を担う林業後継者の確保・育成、自伐林家の育成」の山人塾への参加者が増加し、補助制度の拡充により安全意識の向上が図られるなど効果が発揮されている。また、「木材利用の推進」では、間伐材利用として薪ストーブの利用者が昨年度より申請実績が増加している。これは、補助制度の周知が奏功した結果である。また「多様な消費者ニーズに応える農産物づくりの推進」では、自然栽培の取り組みで、大規模な農園を確保できていないながら実践者も増加し、販路も少しずつ拡大している状況であることから、今後更なる進捗が期待される。

「中長期受入施設整備事業」では、宿泊場所の確保を目的としている。既に行っている本町の民泊はリピーターも多く、好評を得ているが、民泊以外の宿泊施設が少なく、訪れる方々の滞在時間を延ばすことが難しい状況であった。これを解決するために智頭宿内に民間によるゲストハウス整備を支援したことにより、エリア内の魅力が向上し今後の展開が期待される。

I 森の恵みを活かしたまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
健康	智頭町ならではの自然やつながりで健康長寿な暮らし		1			
仕事	受け継いできた仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる	1	5	19	2	
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境		2	3		

2 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり

安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくりの全体評価では、B「かなり達成した事業」が30事業中10事業で全体の33%となっており、昨年度と比較して約7ポイント上昇している。本テーマにおいても、全体的な達成度はまだまだ低いですが、将来像を目指して概ね順調に進捗していることが伺える。

達成度が進んだ事業は、「中学校の部活動の充実事業」で、軟式野球部、男子バレー部、女子バレー部に外部指導者を配置し、成果を挙げている。また、「看護師確保対策の強化」では、制度を拡充と予算確保により新規貸与者、就業者が計画達成した。今後も広報や養成校の訪問による周知を図り、看護師の安定確保を目指す。さらに、「町民バスの更新」は、4台中2台を新規更新した。中山間地域の交通対策は急務であり、今後は公共交通計画の策定を行い、持続可能な運営体制を整備していく必要がある。

達成度に変化はないが、前年度と比較し実績が上がっている事業は、「介護予防事業の推進」でいきいき百歳体操に理学療法士や生活支援コーディネーターと連携を図ることで介護予防の必要性・重要性を普及啓発することができた。反面、減少している事業もある。「乳幼児等保健相談事業の推進」では、子育て講座の受講率が大幅に減少している。決まった人、限られた人のみの参加となっている状況を早急に改善する必要がある。

水道事業の「老朽化施設更新事業」では、昨年度同様に計画的な更新ができておらず、今後は優先順位等を設けるなどして更新を図る必要がある。

近年、大雨などの自然災害の発生リスクが高まっている。本町も昨年の7月豪雨では大きな被害を受け、現在も復旧作業が続いている。大規模災害において、住民の迅速な避難対応は特に重要であると認識し、今後は避難所運営マニュアルの早期作成や避難の重要性を住民に徹底していく必要がある。

安全・安心に暮らすためには他分野との連携が重要であり、将来像達成のために更なる連携強化を図る必要がある。

Ⅱ 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
健康	智頭町ならではの自然やつながりで健康長寿な暮らし		6	10		
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境		4	7	3	

3 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり

子どもから大人まで学びと成長のまちづくりの全体評価では、B「かなり達成した事業」が35事業中6事業で全体の17%となっており、昨年度と比較して約3ポイント上昇している。D「あまり達成していない」では、昨年度5事業14%だったが1事業3%と改善され、昨年度と比較して約11ポイント減少している。本テーマにおいても、全体的な達成度はまだまだ低いながらも、将来像を目指して概ね順調に進捗していることが伺える。しかしながらE「達成していない事業」も存在しているため、早急な改善を図る必要がある。

具体的な事業を見てみると、達成していない事業は「智頭NEXT」である。これは中学校との連携によって実施されるものであり、愛着を育む「ふるさと教育」を進め、将来を担う人材育成の視点からも大きな役割を担っている。

「学校不適応児童に対する適切な指導の推進事業」ではスクールソーシャルワーカーの配置により、中学校における不登校生徒が0人となり、大きな効果が発揮されている。今後も福祉課との連携も強化し、家庭支援の充実を継続して行う必要がある。また、「森林・林業教育の推進」では、木育キャラバンの参加者が250名（前年度比56%増）となっており、木への関心を高めることができた。今後もさらに継続した活動を行うことで智頭林業に対する関心度の向上を目指す。

本テーマは「教育」が大きな柱であり、このため智頭町教育ビジョンを平成31年3月に改訂し、智頭町を愛し、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和がとれ、「生きる力」を持つ子どもを学校・家庭・地域で育成するという基本理念の達成を目指している。理念達成のために様々な事業を計画実施することで、本町の将来を担う「宝」である子ども達が自信に満ち溢れ、すべての町民が学びあえるための環境整備を今後も継続していくことが重要である。

Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
学び	生活の知恵から趣味や仕事まで、くらしを彩る学びを増やす		4	19		1
仕事	受け継いできた仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる		1	1		
仲間づくり	活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に重ねるコミュニティ		1	8		

4 地域や家族のつながりでつくるまちづくり

地域や家族でつながるまちづくりの全体評価では、B「かなり達成した事業」が36事業中10事業で全体の28%となっており、昨年度と比較して約6ポイント上昇している。D「あまり達成していない」は5事業あり、昨年度より約11ポイント下降している状況をみると、達成に向けて着実に進捗していることがわかる。

総合戦略事業の「育みの郷」は、いのちねの委託事業の利用者が昨年度と比較しても増加しているため、定着している。また「空き家バンクの充実」は、新規登録軒数も増加し、専門家によるアドバイスをいただいたことで対応がスムーズになっている。

「在宅育児世帯への支援の推進」では、広報等により事業周知ができ、すべての対象者に給付することができた。しかしながら子育て支援の、「育みの郷」事業を推進しているにもかかわらず、産科医師の確保ができていないなど、進捗の遅れが懸念される。子育て支援策の充実は、今後の出生率の向上へ寄与するため、積極的な事業展開が必要なる。

都市部住民とのつながりをつくり、地域経済の活性化を図るための疎開保険事業では加入者が減少傾向にあり、今後は観光協会等との連携を強化し、智頭町全体のプロモーションを積極的に行うことが必要となっている。また文化的歴史的価値を活かした「板井原集落を活用した交流観光の推進」では、同じく歴史的価値がある石谷家住宅と連携した活性化策の早期検討や、その他観光施設等へのインバウンド対応を見越した対応が急務である。

今回の検証において、地域でつながる幅広い仲間づくりへ展開できていないことや、本町のプロモーション不足が判明した。今後は、本町を訪れていただく「交流人口」と、地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」を増加させることがUターンやIターン等の移住者確保へつなげていくため、事業をさらに強化していく必要がある。

IV 地域や家族のつながりでつくるまちづくり		目標への達成度				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
家族	一人ひとりの個性を活かしながら支え、つながる家族	1	8	12		
仲間づくり	活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に重ねるコミュニティ		1	6	3	
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境		1	2	2	